

成人向け
FOR ADULT ONLY



黒猫らいおんはーと

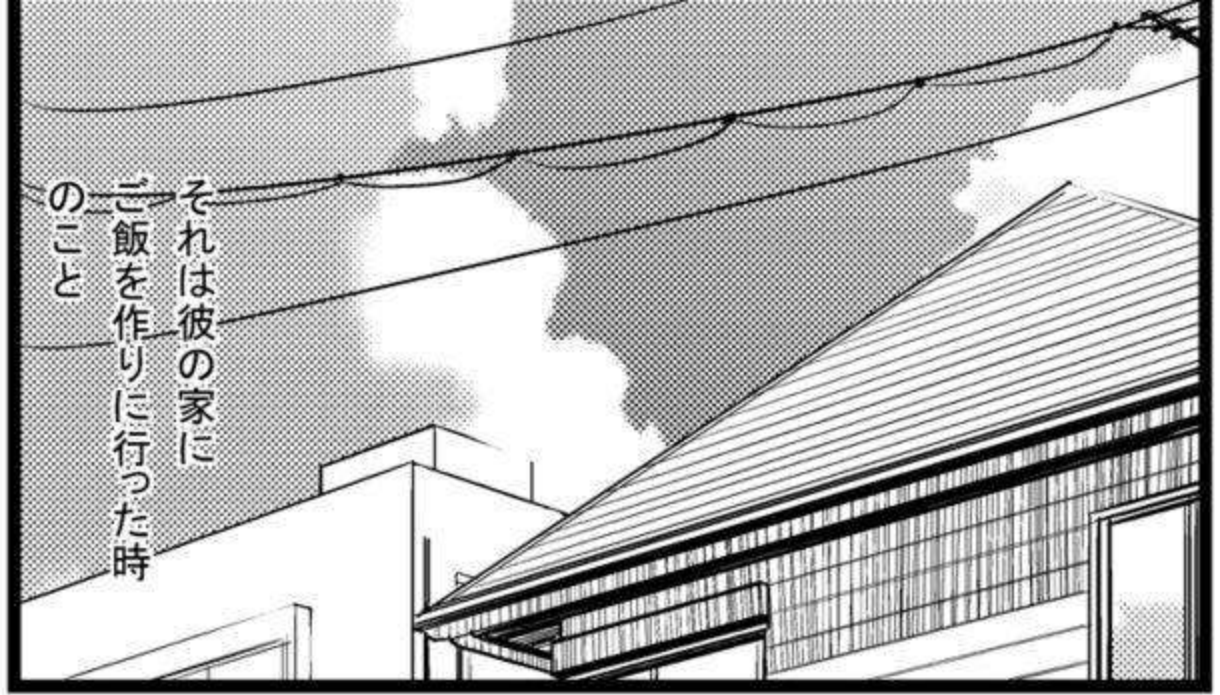
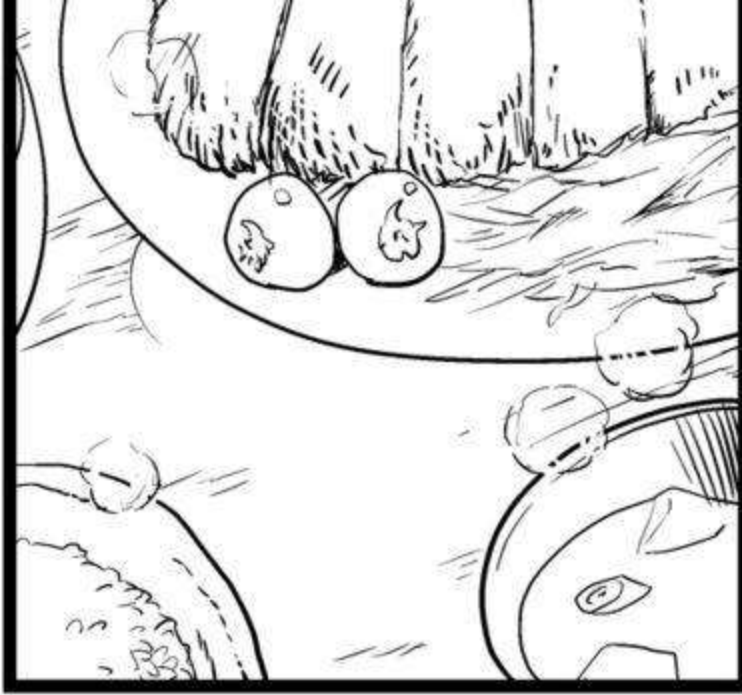
KURONEKO LION HEART

かつての人間としての私は
自分でも嫌になるくらい臆病な存在で
失うことばかり恐れ他人を拒絶し
友達を作るところか人を好きになることさえ想像できなかった

そんな私が傷つくことを恐れず
前に進む勇気を手に入れられたのは
きっと彼のおかげ

そして彼女のおかげ

…だから私は全力をつくすわ
でなければふたりに与えられたものが嘘になってしまうから



それは彼の家に
ご飯を作りに行った時
のこと



その日は家に彼しか
いなくて…



……あ、あなたが…
どうしても言うなら…その
し、してあげても…いいわ



はっはは、破廉恥な
雄ねまったく…っ

え…？するって
あああの…そその…
……っ



……く、黒猫っ！その…
し、してもいいんだよな？
この流れは



黒猫の裸…やばいな
すげえ可愛い

…「ん」も「ほい」
体型だとしても
言いたいのかしら？

変な風に解釈すんなよ
目茶苦茶興奮してんだからさ

信じらんねえ位
肌白くて滑らかだし

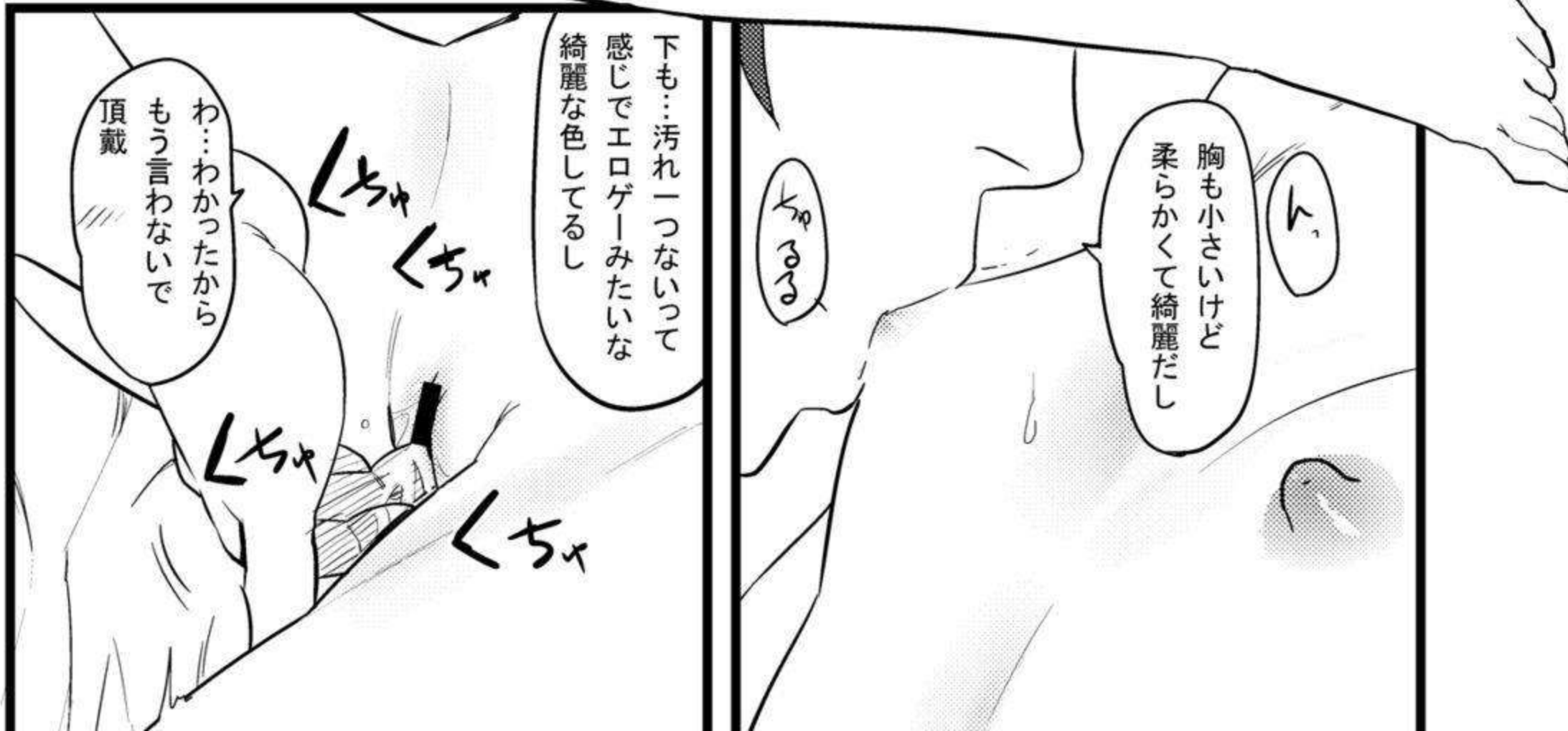
おにゃん

ん

ん

ん

ん



胸も小さいけど
柔らかくて綺麗だし

下も…汚れ一つないって
感じでエロゲーみたいな
綺麗な色してるし

わ…わかったから
もう言わないで
頂戴

ん

ん

ん

ん



決して途中で
やめないと約束して
頂戴

……わたしがどんなに
痛がったとしても…
必ず最後までして



黒猫の…：すげえ
濡れてきた…

742...



えっと…そろそろ
いいか…？

ふ…ふふふ
と思うわ



だけど…
一つだけお願いが
あるわ

お願い？



……もしやめて
しまったら

きっと私はまた臆病な
人間にもどってしまふから…

…け、けどなるべく
痛くないように
なさい

お、おう…
わかったぜ

…よくわからんが





は…入った



黒猫…
大丈夫か？

だ…大丈夫よ
続けて頂戴…

けど…
つらそうだぞ？



…そうね痛いわ
呪い殺したくなる
くらいに

え…？

普段の私ならね…
けど今の私にはこの程度の
痛み…恐れるにたらないわ



貴方を受け入れることが
できたことの方がずっと
大きいからねきっと…

自分が人の身であったことが
こんなに嬉しかったことは
なかったわ



きやつ

すまんっ
もう我慢できねえ！

く…黒猫っ

ゴッ





先...輩...
先輩...

黒猫...
俺も...

黒猫

ドク

ズ

ズ

ドク

ドク

ん
ん

112

 **黒猫らいおんはーと** 
 KURONEKO LION HEART 

黒猫にゃんにゃん



うーん
お前に言われたくは
ないぞ

フイ：フィクションと
現実が違うのよ！
破廉恥な雄ね！

エロい小説やら絵やら
描いたりしてるわりに
黒猫は恥ずかしがり屋で
実際のHには
奥手だったりする
：まあそんなところも
可愛いんだけどな！



コスプレとかして
キャラになりきつちまえば
きつとお前の場合上手く
いくと思うんだ！

え：そんなの
余計に恥ずかしいと
思うのだけれど…

大丈夫だって
さあさあ！
ちよつと…

なりきりH！
つまりはイメージ
プレイだ！

…え？

…なんだか全然いい予感が
しないのだけれど
そのポーズは何？

よし黒猫！
Hが恥ずかしくなくなる
いい方法を思いついたぜ！

だけど健全な高校生は
常に発情期のようなもの
このままじゃ駄目だ！

自主規制

クイーン・オブ・ナイトメア
夜魔の女王
と 漆黒

「よ…っ、よくぞ…」まで
辿りついたわね…。し…し漆黒っ」
「…声上ずってるぞ黒猫」
「あ、当たり前じゃない。
マスケラのシチュエーションで
エ、エッチだなんて…」
「マスケラが言いって言ったのそっちだろ…」
「強いて言えばってだけで……」
別にその私がしたいというわけでは……」
「まあまあ一緒にグラビア撮ったときはほら
上手くいったじゃないか」
「それとこれとは全然違うわよ！」
……自分の漆黒コスの魔力を少しは自覚しなさいよ…もう……」
「ん？今なんて？」
「なんでもないわ…し、漆黒」

「ふふふ…所詮は人間であるお前が
この快感に抗うことなどできはしない。
あきらめて私の物になりなさい漆黒」
「く…俺は絶対に屈しないぞ夜魔の女王！」
「強がるわりにもうこっちは硬くなっているわよ？
さあ天使をも墮とす魔の快楽にお前が
どこまで抗えるか楽しませてもらうわ」
ぐりぐり…きゅっ
「くっ…あ、足でだと…」
「足でされているのを感じているというの？」
「た…たどたどしい動きとストッキングの感触がっ」
ビクンビクン
「ふふふ脈打っているのがわかるわ。
こんどは両足ではさんで擦ってあげる。
さあもつともつと感しなさい！」
「うう…綺麗な足に押しつぶされて…」
「いいわその声。もつと泣いて頂戴。
痛みさえ快楽へと変わるのはどうかしら？」
ぬちゅっぬちゅっ…
「あら…なんだかヌルヌルしたものが足に
まとわりついてきたわ」

「はあはあ…もう果ててしまいそうなのね漆黒。
かわいいわ…ぱんぱんに張り詰めて
いいわそのまま堕ちてしまいなさい」
ぬぢゅつぬぢゅつ♡
「先走りを塗りたくるように足の指が
絡みついてだめだ…もう抗えない」
「ああ…漆黒♡私の漆黒♡」
びゅくん！びゅるる…びゅるっ
「ああ…なんて熱くて純度の高い
生命の源なの…」

「…ふう。黒猫途中からノリノリだったな
オナニーもしてたし」
「…お願いだから言わないで頂戴…」



「お帰りなさいませ」主人様！」

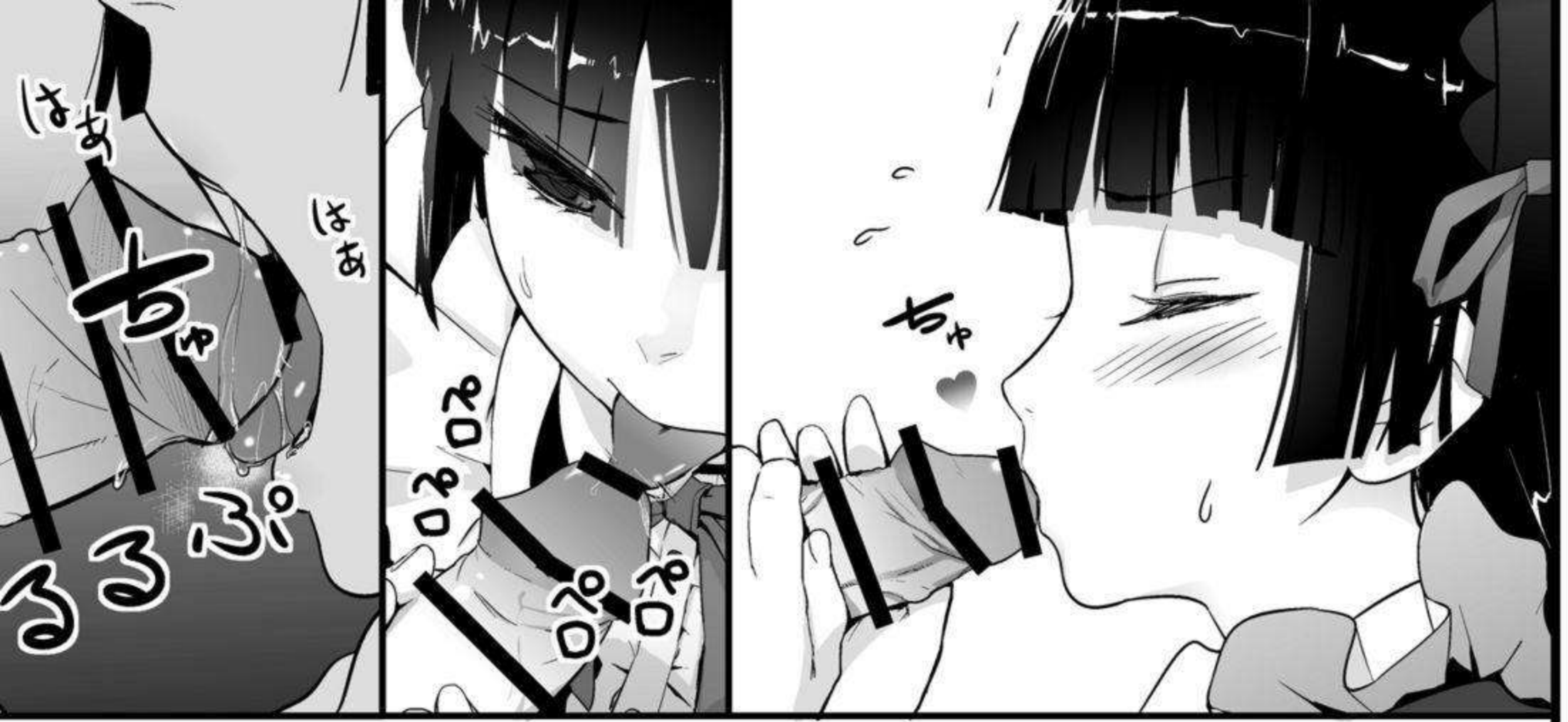


「違うぞ黒猫！」
「え……？」
「俺のことは兄さんと呼べ！あのときみたいに」
「あのときって……あれ気に入ってたの？全く本当にシスコンね
いいわ……今日はなんでも言うことを聞いてあげるわ……兄さん♪」
「う……！」
「ふふ……どうしたの？遠慮しないでいいのよ？
妹にメイドプレイさせる破廉恥な兄さん」
「お、おう……」

「じゃあ黒猫。俺のにご奉仕して気持ちよくしてくれ」
「ごご奉仕ってつまりく、口に入れたりするってことよね……？」
「まあイメージ的にはそうだな。いやか？」
「……いいわ。今日は兄さんのメイドだから……その口でしてあげるわ」
「よし！じゃあ頼むぞ黒猫」
「うう……なんでもう大きくしてるのよ……じゃあするわ」

猫耳妹メイド

と兄さん



……ちゅっ
「おおっ!?」
「な、何よ……?」
「いやなんか……感動した!」
「……ふふ。キスクらいで馬鹿な兄さんね。じゃあもっとしてあげるわ
ちゅっちゅっ」
「キスのたびに。ピクッピクッってなるのはなんだかかわいいわね」
ちゅっちゅぶ
「ふふ、じゃあ次はぺろぺろしてあげるわ」
ちゅぶる♥ぴちやぴちや♥れろん♥
「うわ……黒猫の舌……ヌルヌルで……気持ちいいぜ」
「ん……もっと感じて頂戴」
ちゅる♥れろれろれろれろ♥
「どこが……れろっ……感じるのかしら……ちゅる……裏筋?……それとも
ちゅぶっ……先っぽの方かしら?」
れろれろれろれろ♥
「ちゅる……先っぽからぬるぬるが出てきたわよ……ちゅる……
これが精液の味なのね……ちゅる」
ちゅるちゅる♥
「黒猫……そろそろくわえてみてくれよ」
「……ちゅぶっ……こんな厭らしいものをくわえろですって?まったく
破廉恥な兄さんね。……口の中に入りきるかしら……」
かぶ……
「うわ……黒猫の口の中あったけー」
「んんっ……ちゅぶぶぶぶぶ」
「そうそう歯は立てないようにな……無理するなよ。入るとこまでで
いいからな……そっから口で前後に抜けるか?」
ずる……じゅるるる
「ぶ……はあ……ひひは……ん」
ちゅぶぶぶぶぶ……
「うわ唾液たくさん出てるな……チンポそんなにおいしいか?
……っ!冗談だつて。嗜み付くなよ……」
よしよしじゃあ慣れてきたら舌を絡ませたりして段々早くして
みてくれ」
「ん……っぶ……」
ちゅるるる♥ちゅば♥ちゅるるる♥ちゅば♥ちゅ
「んちゅ……んふう」





「コ、コーチ…本当に
これつきりなんですよね？」

「あの写真返してくれるんですよね？」

「ああ五更。約束は守るから安心しな」

「うう…あのお願いですから…」

「初めては許してくれませんか？」

「更衣室でオナニーしていたくせに
処女だっていうのか…仕方ねえな」

「今回は本番は許してやらあ…今回はな」

「つぷ…ふふふ。あなたこういう
チンケな悪党役が妙にはまるわね」

「…いきなり素に戻るなよ」

「お前は体つきは子どもっぽいくせに
やたらとエロいケツしてるよなあ」

「うう…人が気にしていることを…呪うわよ」

「だから素に戻るなって…」

「にしてもこのケツたまんねえぜ。最高のケツだ…」

「処女は許してやるんだせめてこっちは自由に
させてもらうぜ」

スク水

とエロコーチ

おにゅり

にゅぶつにゅぶつにゅぶつぬぶん！

「はあはあ…お前のケツこき最高だぜ…お前はとうだ？
初めてのチンポの感触」

「っそんなの…気持ち悪いだけよ…っ」
にゅぶつにゅぶつぶちゅんっじゅぶりゅ

「その割りに声が上がってるぜ？このエロ女子高生が…
ほら早く動くからお前もチンポを押さえろ」

「なんでそんなものを…私が触らなきゃいけないのよ」
「いいんだぜ別に…代わりにその水着の中に

チンポぶち込むからよ」

「わ、わかったわよ…っ…っ、っうでいいの？」

「そうそう…いい子だ。よしっっかり押さえてろよ」

じゅばんっじゅばんっぬぢゅんぬぢゅん！

「はあはあ…っ…っ、こんなの何が楽しいというのこの変態…
あなたみたいなのが教育者だなんて…」

ぬぢゅぬぢゅぬばあんぬばあんっ♥

「いくぞっ…お前の綺麗な桃尻を汚してやる！」

「うう…っ…手とお尻の間で汚らわしいものが震えて
張り詰めて…っ…っ…きやっ」

びゅくんっびゅんっびゅんっびゅんっ

「ふう…たまんねえ」

「はあはあ…うう…」

汚されちゃった…っ…」

ぬりゅぬりゅぬちゅる

「ちよつと…精液をお尻に

塗りたいくないで

頂戴…っ…あんっ」

「…っもう洗うの大変なのに
こんなにかけるなんて…」

びゅん
ちゅん

女子高生

と盛りのついた恋人

「現役女子高生の制服姿はコスプレに入らないと思うのだけれど…」

「チツチツチ。わかってないな黒猫。」

徐々に普通のシチュに戻していかないと

コスプレしないとHできなくなっちゃうだろ？」

「それは一体どういう理屈なのよ」

「まあ心配すんなって。」

ちゃんとシチュは用意してあるからさ」

「…そんな心配は誰もしてないのだけれど」

「よしじゃあ今日は俺とお前は下の名前で

呼び合う恋人だ」

「下の名前って…えっと…」

「さあ呼んでみてくれよ…瑠璃」

「—」

「ほらお前も呼んでくれよ瑠璃」

「あの…その…ききき…京介」

「よし瑠璃…ちよつと移動するぜ」

「移動…ってどこに行くの？」

「き…京介…？」



「ちよつと…もしかしてこんなところするつもり？」

「大丈夫だって…休みにこんな隅の教室だれもこねえよ瑠璃」

「駄目よ先輩…！こんなところで…できるはずないじゃないっ」

「おいおい瑠璃…ちよつ…先輩じゃないだろ？それにもう俺の

ハイパー兵器は準備万端なんだよ」

「駄目よつ…やブラ外さないで…」

「ちよつちよぶ…いいだろ？もう我慢できなねえよ」

「やあ…駄目だったらききき…京介…やっパンティ脱がさないで…っ」

「でもこっちは少し湿ってるじゃんか」

「それは…あつ汗よ」

「嘘付け。どんだん又ル又ルしたの出てきたぞ」

にゅぶ…ちゆくちゆくちゆくちゅほお♥

「や…指でかき混ぜないでちようだ…いっ…いや…音しちゃう」

「もう挿れちまうぞ」

「こそ…そ…ぬちゅ♥」

「や…駄目…よ…」

「ほらそんなこと言ってもこっちは素直に飲み込んでいくぞ」

ぬぶぶぶ♥

「やあ…本当に入ってきた…っ。…あんっ…京介の…熱いの本当に入れる…

あつ…なんて…こんな場所だしちや駄目なのに…はあはあ…やんっ」

「つや…あつあつんん…っ…んんんんん」
「おいおい瑠璃…そんな声だしていいのよかよ？
誰か来ちゃうかもしれないぜ？」
「そつそんな」と…っ…っ…しょうがない…でしよ…ああなたが
激しく動くから…ん…っ…っ…」

「でもいつもより興奮してるだろ？
腔内がいつもより締め付けてくるぜ」
「そんなの…気のせいよ…っ…やんっ
もう…わかったから早く出して…あんっ終わらせて頂戴」
「じゃあもっと激しくするから声抑えてるよっ」
「…っあ…っ…っ…」

しゅぽ
しゅぽ
しゅぽ

しゅぽ
しゅぽ

しゅぽ
しゅぽ

しゅぽ
しゅぽ

しゅぽ
しゅぽ





「だめだめっ…奥を突かないで……！ひゃうっ」
 「はあ…はあ…さっきからいきっぱなしだな？」
 「何だかんだ言っても吹っ切れちまえば感度いいよな」
 「じゅぶんっじゅばんっじゅばんっぶばんっ♡」
 「そんなの…知らないわよ…っ…あんっ子宮をこりこり
 押し上げないで…頂戴っ…声出ちゃうから…っ
 おっきいの来ちゃうから…！」
 「俺もいきそうだからこのまま一気にいくぞ！」



「じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ♡」
 「だめ…快樂におぼれて…しまう…っ…ああイクツ…イクイクイクう♡」
 京介…っ！
 「瑠璃…！好きだっ！一緒に…っ出る！」
 「きょう…すけっ♡」
 「びゅくん!!びゅるっびゅるっびゅるっ♡びゅるっ♡びゅるっ♡」
 「おお…これもしかして潮吹きってやつか…こんなの
 初めてじゃないか？黒猫よっぽどのプレイが気に入ったのか？」
 「はあ…はあ…はあ…だっ…あなた人間としての名前で…その
 す、好きだなんて言うから……」
 「ふうん…？じゃあ今度からはエッチの時は言うようにするかな」
 「そんなことされたら…自分から求めてしまうじゃない……」



その後……

そんなこんなで今では黒猫から
さりげなく誘ってくれるくらいに
までなっただが……



ちゅ♡
ちゅ♡

「もう…赤ちゃんみたいよ？
こんな小さい胸別に吸っても楽しくないでしょ？」
「ちゅるる♡っふ…お前の胸小さいけど
すげえ綺麗でかわいくて好きだぜ？」
「ちゅるる…まあお前の胸だったらどんな胸でも
好きなんだけどな瑠璃♡ちゅぶぶ」
「え…？な、なによもう……」
「ふふ…今更照れんなよ」
「照れてなんか…いないわよ…もう……
……き、京介…私もその…す、好きよ」



ばんっばんっばんっばんっばんっばんっ
「やっあんっあっ…貴方の逞しいの…気持ちいいっ♥」
「…たくHに積極的になったのはいいけど
これじゃまるで盛りがついたメス猫だな♥」
「わ…私はそんなに…Hじゃ…ないわよ」
「何言ってるんだよ最近はこのちでも感じれるようになったくせに」
ぬほぬほっ♥
「あ…やあ…っ…貴方が…開発したんじゃないっ…やあ
一緒に動かしちゃだめえっ」
「くうう！エロい黒猫もかわいいなあ♥」
どちゅどちゅどちゅどちゅ
「あっあっあっ♥…もう私をこんな体にしたのだから…
離れることはゆるさないわよっ…」
ああもう…だめえっ……イックうう！」

びく

びく

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ポツ絵

コ-十-

いっもたくさんのポツがうまみま。...

36Pの方が
印刷が安いよ。



はあ

……大丈夫
初デートごとき
簡単なことよ

ドキ
ドキ

あの女にだって
出来たことだもの

私ほどの魔力なら
この程度のこと
たやすいものよ



そう我は
千葉の墮天使
黒猫……

宵闇の加護を受けた
あの日から……



黒猫
何やってるんだ？



あ……あら？
早かったじゃない

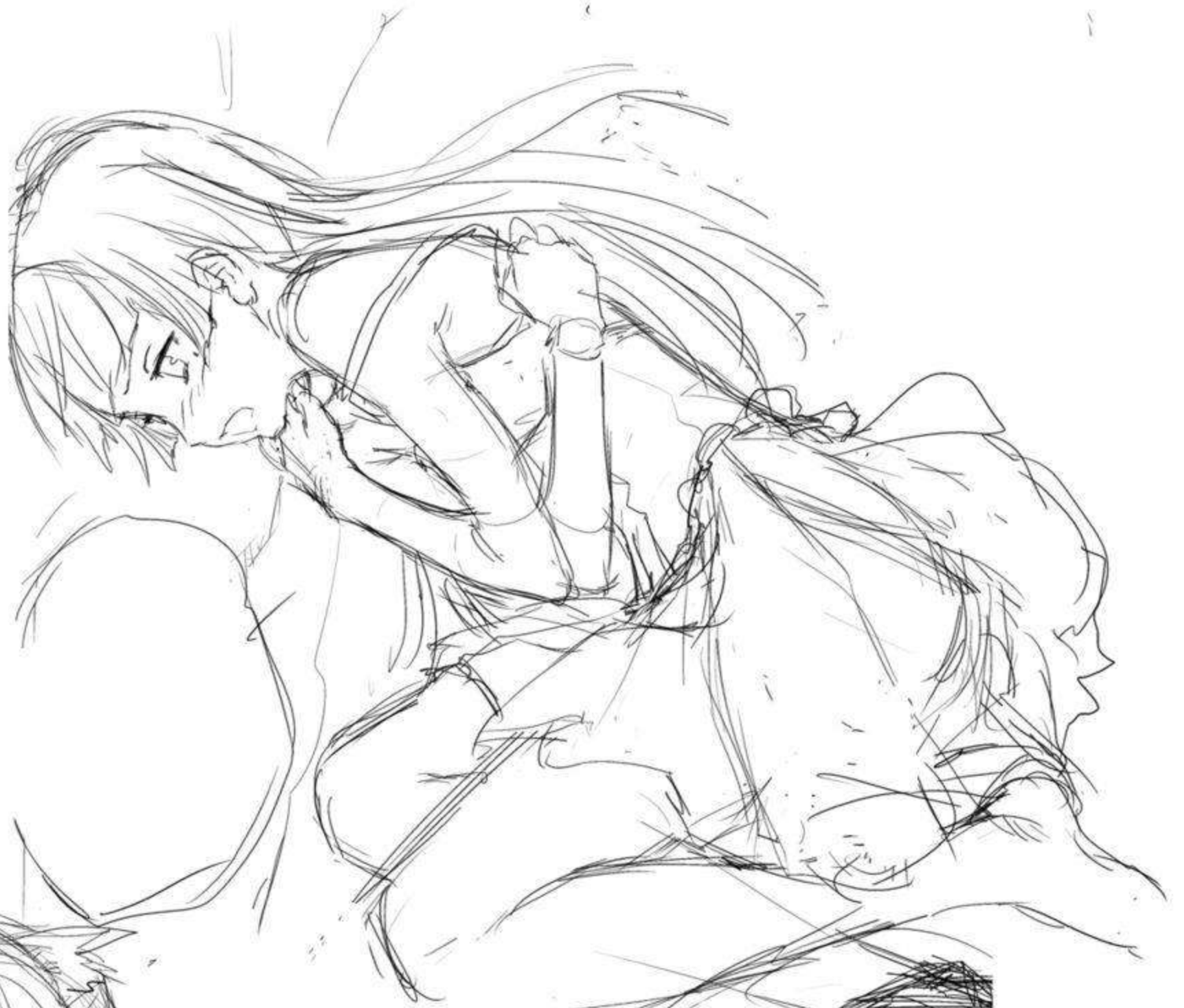
お前の方こそ
もしかして待ったか？

わ……私も来た
ばかりよ

……ホントは十分前には
着いてたけれど







■あとかき

はじめまして、こんにちは～、アジサイデンデンです。
まず始めに、お手にとって頂きありがとうございます！

前は桐乃本だったので、今回は黒猫本にしてみました。

が、黒猫が何度描いても似ない。。。

当初は黒猫エロイラスト集+おまけ漫画本にしようと思ったんですが

イラスト集があんまりエロくない！時間の都合上漫画も中途半端！

36Pにしたほうが印刷代が安いので、無理やり36Pにしたら手抜きなページが多い！

でも！表紙はうまくいきました！(´・ω・｀)

。。。本当に表紙詐欺です、、ごめんなさい.....ごめんなさい.....(´・ω・｀)

次は頑張りますのでご勘弁下さい。

はてさて、次回のイベントは、2月20日（日）「スーパーヒロインタイム2011春」

内、俺妹オンリーイベント「妹恋しよっ！」に参加します。

では、また機会がありましたらどうぞよろしくお願いします。





■ おくづけ

「黒猫らいおんはーと」

発行日：2011.2.6 サンシャインクリエイション 50

印刷所：ねこのしっぽ様

発行：アジサイデンデン

HP:<http://ajisaidenden.x.fc2.com/>

EMAIL:ajisaidenden@gmail.com

- 18歳未満の閲覧・譲渡禁止
- 無断転載・無断複製禁止
- WEBへのアップロード及び公開の禁止
- 乱丁、落丁は非常に「レア」です。
- 友達に自慢するか、ニヤニヤして下さい。
- ご意見、ご感想お待ちしております。



アジサイデント

成人向け
FOR ADULT ONLY

黒猫らいおんはーと

KURONEKO LION HEART

アジサイデンデン